

牧美也子の世界展



—少女漫画から

レディースコミックへ—

牧美也子氏
サイン会

9月6日(土)午後2時~3時
当館2階にて

対象：記念作品集を
購入された方

「銀のかげろう」1968年

入館無料

平成26年

9月6日(土)

11月24日(月)

©牧美也子



さいたま市立漫画会館

〒331-0805 さいたま市北区益裁町150 TEL 048-663-1541 FAX 048-667-4921

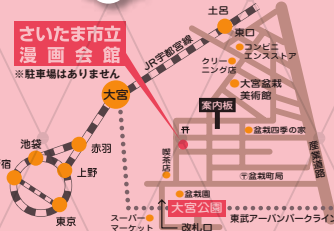
<http://www.city.saitama.jp/>

開館時間 午前9時~午後4時30分

休館日 月曜日(ただし休日の9/15、10/13、11/3、11/24は開館)、9/16(火)、9/24(水)、10/14(火)、11/4(火)

交通機関 東武アーバンパークライン大宮公園駅から徒歩5分 JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩15分

主催：さいたま市立漫画会館 企画協力：(株)アートスペース



牧美也子氏は1935(昭和10)年、神戸市生まれ。実家は大阪の問屋街・松屋町^{まっちゃんまち}で本の卸問屋を営んでいました。小さい頃から絵を描くことが得意で、読書好きだった牧氏は20歳の時、次々と入荷されてくる漫画本の山を見て、「漫画」という表現方法で自分も何か描いてみたいと思いたちます。

1957年21歳の時、2作目に描いた漫画「母恋ワルツ」が単行本として出版され、早くも漫画家デビュー。同年、「白いバレエぐつ」で雑誌デビューも果たします。その後、「少女三人」、「マキの口笛」、「りぼんのワルツ」(『りぼん』掲載)と立て続けにヒット作を生み出し、一躍人気少女漫画家となります。牧氏の描くバレエや舞台を題材にした、ひたむきな少女の成長物語は、清楚で情感のこもった絵柄の魅力と相まって、多くの少女達を魅了したのです。

1967年に発売され、現在も世代を超えて愛され続けている着せ替え人形「リカちゃん」は、日本の女の子達が愛着を持てる人形を作りたいと考えた玩具メーカーが、牧氏の漫画キャラクターをモデルにして作ったものです。



「マキの口笛」



「りぼんのワルツ」



「千本松原情死考」



「源氏物語」



「星座の女」

60年代後半、漫画家として、そして女性としての成長は、牧氏に新たな創作意欲を呼び起こします。子供のための夢と憧れのファンタジーではなく、女性の情念をテーマに、大人の女性が読んで楽しめる漫画(レディースコミック)を作りたい、という思いを深めるようになったのです。

1968年32歳の時に「摩周湖挽歌」を女性週刊誌に掲載。以後、少女誌からは離れ、女性誌・青年誌に創作の舞台を移します。「緋紋の女」、「星座の女」、「恋人岬」、「悪女聖書」、「源氏物語」一男女の恋愛や人間ドラマ、いつの時代も変わらない女性達のしなやかでしたたかな生き様が、文学的情緒に彩られつつ、漫画作品として伸びやかに描き出されています。



牧美也子氏

牧美也子氏サイン会

日時●9月6日(土) 午後2時～3時

場所●漫画会館2階

対象●記念作品集を購入された方(作品集にサインします)

記念作品集を
販売します

(1冊1,000円)